

経 済 動 向

国内の動き

●日銀、まず円買い介入強化

日銀は2月26日の東京市場で株式、円、債券がそろって急落したのに対し、とりあえず円相場の安定を最優先課題とし、円買い介入を強化する。ただ、円、株式、債券が連鎖的に下げているうえ、外国為替市場では第4次公定歩合

引き上げが遠のいたとの見方が円安材料になっているだけに、円安加速に歯止めがかからない場合には、第4次利上げの早期実施を余儀なくされる可能性もある。

(日経 2月27日付)

●「創力」投資フル回転

産業界の設備投資意欲は当初計画に比べすこぶるおう盛だ。その主眼は大型景気が続く中で浮上した設備能力と労働力という2つの力の増強、いわば「創力」投資の実行である。過去最高記録を更新する企業収益が追い風になるうえ、労働力不足対策は中長期的な問題とあって、投資の足

どりは年内いっぱいはいは衰えそうにない。ただ、投資規模が84～85年の前回ブーム時と比べて格段に巨大化しており、米国景気の冷え込みなどで輸出がさらに鈍化してゆくと下方修正に追い込まれる業種も出そうだ。

(日経 2月17日付)

●対外直接投資600億ドル突破

89年度の日本の対外直接投資額が前年度より3割程度増えて600億ドルを突破し、輸出超過額と肩を並べる見通しとなった。貿易摩擦の解消に向けて海外現地生産の動きがさらに進んだことや、外国企業に対する大型の企業合併・買収が相次いだのが主因。特に欧州協同体市場統合を控え

たヨーロッパへの投資が急増、全体に占めるシェアは前年の19%から25%程度に急上昇する勢いをみせている。貿易黒字が順調に減り続けているのとは対照的な動きで、海外との摩擦の焦点は貿易から投資へと移行しそうだ。

(日経 2月14日付)

県内の動き

●個人消費順調、人手不足感拡大

大蔵省関東財務局の水戸財務事務所は2月1日、県内の昨秋以降最近の経済情勢をまとめた。個人消費はボーナスの伸びなど所得環境の明るさを背景に引き続き順調。大型店ではカジュアル衣料の動きが良い。家電製品も好調。乗用車の販売では高級車志向がさらに顕著になってきた。住

宅着工も床面積を増やすための建て替えなどゆとりを求める動きが目立つ。生産面では半導体が需給緩和で一服感がみられるほかは総じて順調。企業収益は3年連続で増益の見込み。雇用情勢は引き続き求人難となっている。

(日経 2月2日付)

●JR水戸駅貨物ヤード跡地開発

水戸市はJR水戸駅南口にある7.7haの貨物ヤード跡地を中心とする大規模開発計画の調査報告書をまとめ、市議会に提出した。市では今回の報告書を土台にして民間活力の導入を含む具体的な利用計画を作成、年内にも国鉄清算事業団の資産処分審議会に提出して了承を求めることにし

ている。この開発計画は水戸市、日立市などを含めた将来の90万都市圏を背景に検討されており、これが具体化すると、周辺の業務、商業、サービス機能は一変する見通し。

(日経 2月23日付)